

平成 27 年度青森市子どもの権利の日イベント

『FOR CHILDREN～手に入れよう！自分たちの理想のまちを～』開催概要

- 1 日時 平成 27 年 11 月 29 日（日） 会場準備・リハーサル：9 時 30 分～12 時
イベント本番：13 時～16 時
- 2 場所 アウガ 5 階 AV 多機能ホール
- 3 出席者 平成 27 年度青森市子ども会議委員 24 名（欠席者 4 名）
平成 27 年度青森市子どもサポーター 3 名（欠席者 3 名）
- 4 次第
 - 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 子どもにやさしいまちづくりに向けた私たちからの意見提案
～20 分休けい～
 - 4 子ども会議版『脱出ゲーム（謎解きゲーム）』
 - 5 市長からの感想
 - 6 閉会

5 開催概要

今年度の子ども会議の集大成となる「青森市子どもの権利の日イベント」の当日を迎えました。子ども会議では、夏休み前からイベント前日まで、この日のために様々な準備をしてきました。

午前 9 時 30 分、会場に集合した子ども会議委員とサポーター、事務局職員は、お揃いの子ども会議 T シャツを着用し、早速、会場内の設営や子どもの権利に関する作品の展示などの準備作業を行いました。

スタッフ全員の協力により作業は順調に進み、準備が完了した後、本番を想定したリハーサルを行いました。リハーサルでは、司会進行シナリオの確認、意見提案発表時のスライドの切り替えの確認などを行いました。大勢の来場者へ向けて発表するというなかなかない舞台に、緊張している様子の子ども会議委員もいる一方、いつもどおりのテンションで談笑している子ども会議委員もいました。



リハーサルを終えた子どもたちは早めの昼食をとり、正午から来場者の受付を開始しました。主に作品作成班のメンバーが受付係を務め、「こんにちは！」と、明るいあいさつでプログラムな

どを渡していました。また、子ども会議委員の発案で、来場者にバルーンアートで作った風船をプレゼントしました。



そして13時になり、いよいよイベント開始の時間となりました。

平成27年度青森市子どもの権利の日イベント 『FOR CHILDREN～手に入れよう！自分たちの理想のまちを～』

はじめに、総合司会を務める4人の子ども会議委員が自己紹介した後、イベント開催にあたって鹿内市長があいさつを述べました。

市長から、「子どもに優しいまちづくりを進めていきたいという思いで青森市子どもの権利条例を制定しました。皆さんからご提案される青森市のまちづくりについての提案内容をしっかり受け止めて、それが実現できるように努力していきたいと思えます。これからの提案、そしてプログラムを非常に楽しみにしております。」と、あいさつがありました。



続いて、子ども会議委員のプログラム「子どもにやさしいまちづくりに向けた私たちからの提案」が行われました。来場者の方々には、受付で配布したプログラムを見ていただきながら、「文化」、「環境」、「健康・食」、「まちづくり」の4つのテーマグループの提案発表を聞いていただきます。また、提案発表にあたって、発表グループと来場者の間を取り仕切る進行役となる「コンダクター」の子ども会議委員5名が紹介されました。

文化グループ「TUBE」の発表

『文化』というテーマを選んだ理由

自分たちが住む『青森市の文化を若い世代に広め、伝えよう』をテーマに、今年で70年目を迎えた青森空襲に関心を持ち、この活動を行ってきました。

これまでの活動内容

- ①中央市民センター内の青森空襲資料展示室での空襲資料見学
- ②青森空襲体験者宅を訪問しての空襲体験談の聞き取り調査

を行い、戦争は繰り返されてはいけないことだと改めて感じました。また、そのことを未来にも伝えていかなければいけないと思いました。



提案内容

私たちが提案することは「歴史に関わる機会を増やす」ということです。

- ①青森の歴史を知ることができるイベントを開催するなど、若い世代が青森の歴史に関わる機会を増やしてほしい。
 - ②学校の図書館に青森の歴史に関する本を置いてほしい。
- ということを提案します。

続いて、コンダクターから、青森市教育委員会事務局の工藤教育次長に、意見や感想をうかがいました。

工藤教育次長は、

「皆さんから、歴史に関わる機会を増やしてほしいという提案が出たことを嬉しく思います。青森市には、歴史に関する施設として『あおり北のまほろば歴史館』などの施設があり、その中で様々なイベントが開催されていますので、是非足を運んでほしいと思います。皆さんから発表があった、体験談を聞けるようなイベントを開催してほしいということについては、様々なイベントを企画していく中で、どこにそういうふうなものを設けていけばいいかなということを良く考えて、これから実現に向けて検討していきたいと思います。学校の図書館に歴史の本を置いてほしいということについては、実は、青森市の学校図書館はすごく有名で、『子どもの読書活動優秀実践校』という文部科学大臣表彰で平成14年度からの14年間で8回も表彰を受けているんです。ですから、きっと皆さんの学校の中にも歴史に関わる本がたくさんあるかと思いますが、探してみてください。最後に、『この本が読みたいんだ』というものがあつたら、実は学校でどの本を買うかというのは学校に任せられているので、そういう本があつたら、図書館の学校司書の先生や指導教諭の先生にお話してみてください。私の方からも、各学校に、『TUBE』の皆さんから『歴史の本を置いてほしい』という要望があつたということを伝えておきたいと思います。」と、述べていました。

その後、文化グループの提案に対して、市長から感想をいただきました。

市長は、

「市では、毎年7月28日に、空襲で亡くなった方々の慰霊式典を開催しています。そして、今年は戦後70年ということもあり、長崎に平和大使として4名の中学生の方を派遣し、青少年ピースフォーラムに参加していただきました。その後、市が行う平和の集いに参加していただき、長崎の状況を報告していただきました。また、空襲を忘れないように、そしてまた、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていくために、7月28日を青森市平和の日として条例を定めようとしています。平和教育事業も一つとして平和大使の派遣を今後も続けて行きたいなと思っていますので、皆さんも是非そういった事業に参加していただきたいと同時に、皆さんから『こういうことをした方がいいんじゃないの』という提案を、これからもいただきたいと思っています。発表していただきましてありがとうございました。」と、述べていました。

続いて、環境グループからの発表がありました。

環境グループ「Misterioso(ミステリオソ)」の発表

『環境』というテーマを選んだ理由

東北地方を襲った大震災を機に、「節約する」ということが見直され始めたことに着目し、節水・節電に関する考えに、“レボリューション（革命）”を起こしたいと思い、この活動を行ってきました。

これまでの活動内容

①市役所環境政策課職員による青森市の環境政策への取組に関する講義及び聞き取り調査

②グループメンバー各自が、インターネットなどで節水・節電に関する調査を行いました。



調査の結果、節電については、

○現在、世界の1年間の電力消費量は19.7兆KWhで、1位がアメリカ、2位が中国となっています。

○フランスでは、パソコンやテレビをスタンバイ状態にしたり、移動手段として、徒歩や自転車、公共交通を利用するなど、国をあげて節電に取り組んでいます。

○エアコンの冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定するだけで、年間約2,000円節約できます。

また、節水については、

○世界の地域別に水の使用量の順位を見てみると、アジア、北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、南アメリカの順になっています。

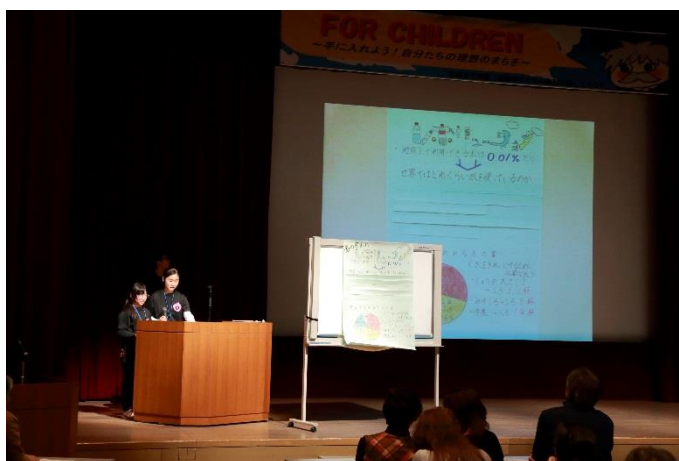
○ヨーロッパでは、食器洗いのときに洗剤を洗い流さず、バケツなどに水を溜め、洗剤を溶かし泡立で食器を洗い、そのまま拭いて乾燥させています。日本で、これを行うことは難しいと思いますが、洗剤の量を減らしたり、水をバケツに溜めて洗うことは参考にできるのではないのでしょうか。

○家庭内で使われる水の量については、1番多くの水を使うところはトイレで、

家庭で使う水の量の28%を占めています。2位はお風呂で24%となっています。3位はご飯などの食事関係で23%、4位は洗濯で17%となっています。

○また、下水に流してしまった食べ物をきれいな水に戻すことにも、たくさんの水が使われています。お風呂1杯分を200Lとすると、しょう油大さじ1を流した場合には風呂8杯分、牛乳大さじ1では、お風呂14杯分となっています。

○洗面や手洗いなどで1分間水を出しっぱなしにしていると、12Lもの水を使ってしまいます。また、食器洗いで5分間水を出しっぱなしにしていると60L、シャワーで3分間出しっぱなしにしていると36Lもの水を使うこととなります。ですから、使わないときには水を止め、使うときも使う分だけ出すように気をつけましょう。



提案内容

このように、身近な場所からできる「節水・節電」方法はたくさんあります。また、市では、住宅用太陽光システムや地中熱利用設備の設置など様々な取組を行っています。ただ、この取組があまり市民に普及されていないように感じます。この取り組みについて市民が理解することによって、市全体でも行っているなら私も、というように心持ちが変わるのではないのでしょうか。

私たちは、

- ①家庭などの身近な場所からできる「節水・節電」方法を市民に普及させてほしい。
- ②青森市が実施している環境政策への取組を市民にもっと普及させてほしい。

ということを提案します。

続いて、青森市環境部の木村部長から意見や感想をいただきました。

木村部長からは、

「ミステリオーズの皆さんが地球環境のことを考えて、貴重なご提案をしてくれたことを大変うれしく、そして頼もしく思っております。市ではこれまでも環境教育や温暖化対策にかかる普及啓発活動とか、様々な取組を進めておりますが、皆さんが、『市民の皆様あまり普及していないのでは』と感じておられるとすれば、市としてもっと工夫を凝らしていかなければならないと思いました。将来の地球を守る若い環境リーダーとして、これからも市のほうへどんどんご意見やご提案をいただければと思います。今日は本当にありがとうございました。」

と、感想がありました。

続いて、この提案に対して市長から感想をいただきました。

市長は、

「大変勉強になりました。水については、青森市は日本一おいしい水があります、ということを一生涯懸命宣伝してきたんですが、節水ということについては、ちょっと力を入れるのが足りなかったかなと思います。それだけに、先ほどのデータや注意喚起は非常に大事にしていかなければと思いました。節電については、市としていろんな取組をしていますが、もっとしていかなければいけないということも感じました。ありがとうございました。」と述べていました。

続いて、健康・食グループからの発表がありました。

健康・食グループ「KKS」の発表

『健康・食』というテーマを選んだ理由

一つめは、「食」という視点から青森市の「健康」について考えようと思ったからです。私たちにとって「食」は身近であると思います。だからこそ食べることを楽しみつつ、健康について見直すべきではないかと考えました。

二つめは、子どものうちから正しい「食」についての知識を身につけ、短命県を返上するきっかけを作るためです。子どものうちにしっかりと食生活を身につけておくことで、私たちが一人暮らしをして自立したときや高齢者になっても健康でいられるきっかけになるのではと考えました。



これまでの活動内容

- ①健康づくり推進課の栄養士による関する講義及び聞き取り調査
- ②子どもサポーターによる青森の食文化に関する講座を行いました。

私たちは、「食」について知識を深めるために元気プラザに行き、栄養士の方にお話をうかがってきました。

まず、青森県民は塩分摂取量が多いという問題についてです。塩分を摂りすぎると、血液中のナトリウムが増加して心臓の負担が増加し高血圧につながります。ナトリウムの増加を防ぐ栄養素としてカリウムがあります。カリウムは、ナ



トリウムを引き寄せ、体外へ排出する働きがあります。そこで、カリウムを多く含む食材と一食あたりの摂取目安を紹介します。ほうれん草小鉢1皿、バナナ1本、切干大根小鉢1皿、トマト1個、アボカド1/4個などです。カリウムは水溶性なので、味噌汁やスープなど汁ごと食べられる調理方法が適しています。

次に、野菜の摂取量が少ないという問題についてです。多くの家庭の食事の形である主食、主菜、副菜とは別に、プラス一皿で野菜を食べることが望ましく、小鉢一皿でおよそ60gから70gの野菜が摂れます。青森にはたくさんのおいしい野菜があるので、一日350gを目標に野菜を食べましょう。



そこで、簡単かつ手軽に野菜を摂れる料理を作ってみました。受付時に配布した封筒の中にレシピが入っています。ほうれん草とトマトのコンソメスープはカリウムが豊富な、ほうれん草やトマトを汁ごと食べることができます。また、クリーム系のスープよりもコンソメスープにすることでカロリーを抑えました。にんじんとバナナの蒸しパンは好き嫌いが分かれるにんじんをバナナの蒸しパンに入れることで食べやすくしたことがポイントです。また、ホットケーキミックスを使いより簡単に作りました。作った後はみんなでおいしくいただきました。ぜひ、皆さんも作ってみてください。



現在、青森市のホームページでは、青森市内にある「健康づくり応援店」の紹介や野菜たっぷりレシピの紹介があります。そのようなこともあって、最近、青森県の食塩摂取量は減少し、野菜摂取量は増加してきました。徐々に健康への意識が高まってきていると思います。しかし、青森市民が高齢になってからも笑顔で元気に過ごすために、私たち子どもも「食」と「健康」について知識を身につけていくことが大切だと考えています。

提案内容

- ①子どものころから食と健康に関心を持つことができるように、食と健康に関する講義などを学校教育のカリキュラムに取り入れてほしい。
- ②子どもたちを対象にした食と健康に関するイベントを開催してほしい

ということです。

続いて、一つ目の提案に対し、青森市教育委員会事務局の工藤教育次長から意見や感想をいただきました。

工藤教育次長は、

「短命県返上をテーマにした調査、とても勉強になりました。私自身も気をつけたいなと思いました。学校では家庭科、体育、社会科、学級活動の時間帯で、食と健康についての勉強をしています。小学校6年間で97時間、中学校3年間で35時間、9年間で合計132時間勉強しています。その他に、栄養教諭とか栄養士の皆さんが学校を訪れて、食べ方や栄養のことなど、食と健康についての勉強ができるようにしています。皆さんの提案は、短命県返上という視点で調べているのが本当に印象に残りました。教育委員会に戻ったら、KKSの皆さんがお話した内容や視点を大事にしようということをお話しておこうと思います。ありがとうございました。」と感想を述べました。

続いて、二つ目の提案について、青森市健康福祉部の今村理事から意見や感想をいただきました。

今村理事は、

「現在、市をあげて短命市返上ということに取り組んでいる最中にこのようなテーマを取り上げてくれて本当にありがたいと思います。皆さんが是非学校の友達やお父さんお母さんに伝えていただければ、青森市の将来は明るいと思います。今回のご提案ですが、市でも様々なイベントをやっておりますし、思春期健康教育というもので学校の方にかがって食のお話もしております。しかし、大人に対してのイベントは開催していますが、子どもたちを対象としたという部分ではまだ手薄という状況になっておりますので、健康づくりについて様々な団体の方々と協力しながら市民の健康づくりを考えていく健康アップ推進会議という中で、いろいろ相談しながら、子どもたちを対象にしたイベントを前向きに検討していきたいと思っております。」と、感想がありました。

続いて、市長から感想をいただきました。

市長からは、

「ありがとうございました。青森市として健康づくりの取組は前から行ってきたのですが、平成25年に青森市の男性の寿命は全国の市町村の中で上から4番目に悪いというデータが示されました。これは大変だとなって、平成25年の11月に、みんなで健康アップを進めようという健康アップ宣言をし、そこからリーダー養成などの様々な取組をしてきました。皆さんから、子ども向けのイベントを、という提案がありましたが、市では、健康アップ推進大会というイベントを毎年開催しており、いろいろな取組をしています。その中で、皆さんが考えた料理を

食べてみたいし、大人が考えた料理を皆さんにも食べていただきたいなと思います。『食べる』ことをテーマにしたイベントなど、もっとわかりやすいかたちで大人と子どもが一緒に行く健康づくりのイベントを来年度から考えてみたいと思います。そのときは先程のレシピを食べてみたいと思います。」と、感想がありました。

続いて、最後のグループとなる、まちづくりグループの発表がありました。

まちづくりグループ「3代目マーチハンターズ」の発表

『まちづくり』というテーマを選んだ理由

子どもの視点から新町や青森駅周辺の活性化を目指すため、この活動を行ってきた。

これまでの活動内容

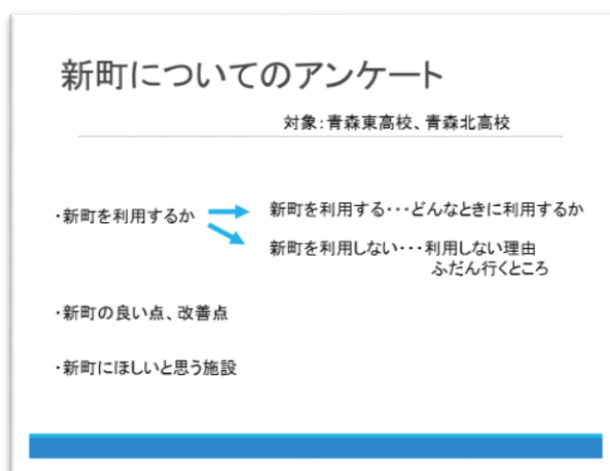
- ①新町や青森駅周辺のフィールドワーク
- ②青森市浜田地区の大型商業施設周辺での聞き取り調査
- ③高校生（青森北高校・青森東高校）への新町周辺の活性化に関するアンケート調査の、3つの活動を行いました。



私たちは新町を歩いてみて、思っていたよりたくさんの店があったけれど、子どもや若い人たちが入りたくなるような所がほとんどないと感じました。私たちが入りたかったところも、だいたいがとても小さくて、よく見ないと分からない場所にありました。また、車通りは多いけれど、駐車場がほとんどないと感じました。

私たちは、東高校と北高校に、新町についてのアンケートをとりました。アンケート内容は、最初に新町を利用するか・しないかを聞き、利用する場合はどんなときに利用するか、利用しない場合は、利用しない理由、ふだん行くところを聞きました。次に、新町の良い点、改善点をそれぞれ聞き、最後に、新町にほしい施設を聞きました。これからそのアンケート結果を発表します。それでは、スライドをご覧ください。

まず、新町を利用するか・しないかの質問では、利用する人は64%、利用しない人は36%でした。利用する人の中で「買い物」、「遊び」、「飲食」、「勉強」、「アウガ、ラビナに行く」、「電車待ち」、「通勤・通学」などのときに利用するという意見が多かったです。また、利用しない人の中で、「娯楽施設・電車・飲食店が少



ない」「物価・バスが高い」などの理由で利用しないという人が多く、ふだん行くところは「イトーヨーカドー方面」、「コロナ・ガーラタウン」などが多かったです。

次に、新町の良い点、改善点で、良い点は「学校帰りに寄って、遊んだり勉強できたりする」、「歩道の道幅が広く、障がい者への配慮もある」、「静かでゆったりとした雰囲気」、「地元のものがいっぱい」などが多く、改善点は「子どもが遊べるところがない」、「どこに何があるか分からない」、「駐車しにくい、車で行きにくい、料金が安い」、「PRが足りない、看板が古い」、「空き店舗が多くて寂しい」、「営業時間が短い」などが多かったです。



最後に、新町にほしい施設では、「ゲームセンター」、「マック」、「休憩できる場所」、「地下街」、「テーマパーク」などの施設がほしいという意見が多く、また、今ある施設を新しくしてほしいという意見もありました。

提案内容

このアンケート結果をもとにして、私たちは次の2つのことを提案します。

①人の流れを作るために、青森駅周辺から市内の各商業施設（三好方面や浜田方面）への交通網を発達させるとともに、サービス面での連携も目指してほしい。

②新町に人を集まりやすくするために、現在行われているサービス等（共通駐車券の利用等）についての更なる情報発信や店の営業時間の延長を実施してほしい。

ということを提案します。

では、ここで会場の皆様のご意見をうかがってみたいと思います。今までの子ども会議委員の提案やお見せしたアンケート結果を踏まえて、皆様のご意見をお聞かせください。新町をこれからどうしてほしいか、意見のある方は挙手をお願いします。いらっしゃいませんか。では、突撃インタビュー行きます。

(まちづくりグループのメンバーが来場者にインタビュー)

【来場者（女性）】「もっと遊ぶ場所を増やしてほしいです。」

アンケートにも、子どもが遊ぶところが少ないという意見があったので、それもすごく大事なことだと思います。ありがとうございました。他にいらっしゃいませんか。

【来場者（男性）】「私もなかなか新町に来ることは少ないんですけども、やはり高校生など若い人たちが集まれるような場所が充実してくればいいなと思うんですけど、家族で出かける場合はどうしても車で出かけることが多いので、駐車場が広くて無料のところに行ってしまうというのが現状です。」

アンケートの中にも同じように「無料の大きな駐車場がほしい」とか「若者が集まるようなところがほしい」という意見があったので、それも参考にしてほしいと思います。皆さん、貴重なご意見ありがとうございました。

今、2人の方から意見を伺いましたが、私たちと同じような若い人が集まる場所があれば新町全体が活性化するという意見や、家族で新町にいらっしゃる人への駐車場の整備などをしっかりしていくことによって、新町がもっと活発な場所になると思います。私たち子どもの意見だけではなく、違った視点からも意見をうかがうことができ、貴重な機会となりました。ありがとうございました。

すべての人の意見が思い通りに実現されるのは難しいことですが、市長や市役所の部長の皆さん、関係する方々に提案させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

続いて、一つ目の提案に対し、青森市企業局交通部の成田部長に意見や感想をいただきました。

成田部長は、

「いつも市営バスをご利用いただきまして、ありがとうございます。新町が盛り上がっていくために郊外の大型店との交通網の拡充を、という話ですが、私どもでは青森駅と浜田循環線という形で一日に7便運行しております。西部地区のガーラタウンについても、新たに西バイパス経由で、ガーラタウンまではいかないんですけども、近くまで行くようなバスを運行しているなど、商業施設と駅との交通網を充実するように努めています。ただ、自家用車の増加などでバス利用者がだんだん減っているような状況にあり、交通部が大変厳しい状況にあるのも確かです。皆さんが利用していただければ、交通部もこの先また続けていくことができると思いますので、どうか市営バスをよろしくお願いします。」と述べました。

次に、青森市経済部の増田理事にご意見やご感想をうかがいました。

増田理事は、

「まず、新町商店街の活性化という話題を取り上げていただいたこと自体に感謝申し上げたいと思います。皆さんのような子どもの方々に、新町に興味を持ってもらうこと自体が、新町商店街の皆様の第一の課題だと思いますので、お礼申し上げたいと思います。それから、情報発信の件について、新町商店街をはじめ中心市街地の商店街さんは、様々な情報発信を努力してごしています。しかし、実際に皆さんがそのような感想をお持ちということはまだまだ情報発信が足りないということなので、その点につきましては、帰ったらそれぞれの商店街へ伝えたいと思います。それから、営業時間を延ばすという件なんですけれども、営業時間の関係についてはそれぞれのお店の都合がごいますので、なかなかこちらから延長していただきにくいということがあります。本日いらしていただいている皆様が、新町商店街でお買い物をいただければ、営業時間を延ばしてくれる可能性が増えていくかと思います。ご協力よろし

くお願いいたします。ありがとうございました。」と、感想を述べました。

最後に、市長から感想をいただきました。

市長は、

「高校生の皆さんからアンケートをいただき、ありがとうございました。(重要なのは) 新町の地域の魅力づくりだと思います。具体的には、施設をどう整備していくかということでは、ワラッセやJRさんが作った商業施設である A^{ユー}-FACTORY、そして現在、八甲田丸のリニューアルをしており、12月にさらにきれいな八甲田丸を提供できるかと思います。併せて、青森市にしかなできない魅力づくりとして、青森ベイエリアで『灯りと紙のページェント』という冬祭りのイベントを行うなど、これからもハード面、ソフト面で進めていきたいと思っています。商店街では、ねぶたが出陣する春フェスティバルや、新町のふれあい広場、秋祭り、そしてこれからの冬祭り。もちろんねぶたの時期の夏祭りなど、さまざまなイベントを通して新町の魅力づくりをしっかりと商店街の皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。また、今年から市内の大学生の皆さんが、新町の商店街を活性化しようという活動に、市として支援を行っています。その成果もこれから出てくるだろうと思います。市、商店街、市民の様々な活動を通して、新町の魅力づくりを進めていきたいと思っています。これからまたいろんなご提案をいただければありがたいと思います。ありがとうございました。」と、述べていました。

最後に、コンダクターから、「どの提案も子どもたちがより過ごしやすいまちにしたいという思いが伝わりました。今日のイベントでもっと人々が笑顔で幸せに過ごせるまちになることを願っています。」とあいさつがあり、「子どもにやさしいまちづくりに向けた私たちからの意見提案」が終了しました。

ここで、司会から来場者の皆さんへ、このイベントのアンケートへのご協力のお願いと、子どもの権利に関する作品や子ども会議活動記録の展示の紹介をし、休憩に入りました。休憩時間中に子ども会議委員は、次のプログラムへ向け、会場の準備に入りました。



休憩時間が終わり、子ども会議版「脱出ゲーム (謎解きゲーム)」が始まりました。ゲーム中の司会進行は、これまでこのゲームの中心となって準備してきた子ども会議委員が務めました。

子ども会議版「脱出ゲーム（謎解きゲーム）」

司会から、
○このゲームでは、来場者の皆さんに探偵になってもらい、謎解きに挑戦してもらうこと
○会場内にある名札をかけた子ども会議委員のところに行き問題の答えを伝えると、次の謎（問題）やヒントがもらえること
が伝えられた後、会場にオープニングムービーが流されました。一人の男の子がいじめられてしまい、耐えられずどこかへ逃げ出してしまったという内容でした。



その後、「偶然にもその男の子が、この会場に逃げてきたようです。みんなで男の子を探して助けてあげましょう。」と司会からのアナウンスがありました。このゲームの目的は、問題を解いていき、会場内にいるいじめられた男の子を探し出して助けることのようにです。

次に、司会から今回のゲームはチーム戦であることが伝えられ、来場者の皆さんに、大人と子どもの混合で、AチームからJチームまでの10チームまでのチームを作ってもらいました。市長をはじめ市の関係者やゲームに携わっていない子ども会議委員も参加しました。そして、チームの交流を深めるとともに会場内に隠されたヒントを探すため、会場内を見て回った後、各テーブルに用意された、封筒に入った謎を見てもらい、謎解きを開始しました。各チームは、大人と子どもが知恵を出し合いながら、子ども会議委員が作成した問題を解いていました。すぐに解答を導き出しているチームもあれば、かなり悩んでいる様子のチームもありました。なぞなぞのような問題だったためか、子どもたちよりも大人の方が苦戦しているようでした。



（出題された謎の一部をご紹介します。子ども会議委員が作成した問題を解いてみましょう。）



①



②

（答えは次ページ）

ゲームは進み、Fチームが一番乗りですべての問題を解き明かし、司会に「りゅういち」という解答を伝えてゴールしました。その後、他のチームも続々とゴールしていました。そして最後には、舞台上で、逃げ出した男の子に対しいじめっこたちが「仲間はずれにしてすみませんでした！」と謝罪するという寸劇が行われ、子ども会議版「脱出ゲーム（謎解きゲーム）」は終了しました。



最後に、市長から今回のイベントを通しての感想をいただきました。

市長は、

「謎解きゲームは、私はまったくわからなかったんですけど、私以外の4人の方が解いてくれて、改めて自分の頭が固くなってきているなということを感じました。皆さんの柔軟な発想、考え方に感動しました。クイズは解く方も難しいですが、たぶん作る方ももっと難しかったと思います。いとも簡単にできたのかと思うと非常にまた次が楽しみだなと思いました。これからも子どもの皆さんの活動を続けて、そしてまた、広げていただければありがたいなと思います。子どもの権利条例のある青森市が子どもたちに優しいまちになることは、子どもたちだけに優しいまちなのではなく、子どもにとっても大人にとっても良いまちになることに繋がりますので、この活動をさらにまた一つ一つ重ねていただければありがたいと思います。学校生活が忙しい中でいろんな活動していただいて本当に感謝します。ありがとうございました。」と、感想を述べていました。

以上で、平成27年度の青森市子ども会議平成27年度青森市子どもの権利の日イベント『FOR CHILDREN～手に入れよう！自分たちの理想のまちを～』はすべて終了しました。

(前ページの答え)

- ①一番上は「イ㊦り」。二番目は「ダ㊩ヤ」。三番目は「㊰ウ」。四番目は「㊱マ」。それぞれの囲まれている文字をつなぎ合わせ、答えは「カイゾク」。
- ②「ミドリ」の最後の文字、「リング」の真ん中（中心）の文字、「ゴリラ」の最初（頭）の文字をつなぎ合わせ、答えは「リンゴ」。